

# はしごからの 墜落・転落災害を防ごう



はしごは、身近な用具であります。使用方法を誤り、墜落した場合、脊椎等を損傷して、歩行困難等の**重篤な後遺障害**が残ったり、最悪の場合、**死亡**してしまうことがあります。

## 災害事例

設備工事中、作業のために天井に取り付けてあったチェンブロックを取り外すため、はしごに昇り、チェンブロックを取り外した際、バランスを崩し、高さ2.9メートルの位置から墜落した。

## 災害事例

屋根工事中、昇降のために立て掛けていたはしごで屋根から降りようとはしご棧に片足をかけたところ、はしごの足元が滑り、はしごが倒れるとともに、屋根から高さ3メートル下へ墜落した。

## はしごでの作業方法を選択する前に ～その作業、「はしご」で大丈夫？～

はしごは、基本的には昇降のために使用するものです。はしご上で、力を入れなければならない作業、一時的にでも棧から両手を離さなければならない作業等を行う場合、有効な墜落防止対策の実施が困難であり、墜落の可能性が高くなります。また、はしごから身を乗り出す無理な作業を行う場合、はしご自体が転倒してしまう危険性があります。

### 作業方法を決定する前にチェックしましょう

	はしごから身を乗り出さなければならない
	はしご上で、重量物、工具を支えなければならない
	両手をはしご棧から離さなければならない(3点確保ができない) 手足のうち、3点は、はしご棧に接した状態を維持すること

☑が一つでもある場合、移動式足場、可搬式作業台、手すり付き脚立、高所作業車を用いる作業方法を選択するようにしましょう。

# はしごを使用する前、使用中に ～チェックしましょう使い方～

	はしごの上端を、床等から 60 cm以上突出しているか
	はしごの立て掛け角度は、75 度程度となっているか
	水平な場所に設置しているか（左右に傾いていないか）
	はしごの上部・下部を固定しているか （2連はしごの場合、取扱説明書をよく読んで、適切な固定方法を採用してください）
	はしごの踏みさん等に、損傷はないか
	はしごの向き（上下・表裏）は、適切か （2連はしご、はしご兼用脚立の場合、向きを間違えると危険です）
	はしごの足元に、滑り止めがあるか
	靴は、滑りづらく、昇降中に脱げないものを履いているか
	ヘルメット（墜落時保護用）を着用し、あごひもを締めているか
	昇降時には、三点確保を徹底しているか （手に材料等をもって昇降していないか）

